

知的障がいのある子どもから暴力を振るわれるという高齢者の相談・支援

■人権キーワード

- ・ 高齢者、障がい者、虐待

■相談の主訴

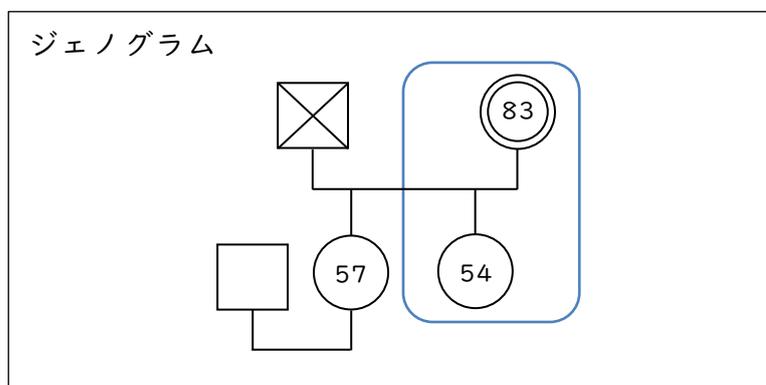
- ・ 相談者は知的障がいのある娘と同居している。娘は感情のコントロールが難しくなると相談者に暴力を振るうことがあるが、二人とも今後も自宅で暮らしたいという思いが強く、なかなか状況が改善しない。

■相談者

- ・ 83歳、女性。現在、要介護3。
- ・ デイサービスとヘルパーを利用している。
- ・ 近年は理解力や短期記憶力の低下がみられるため、補助人が付いている。
- ・ 夫は数年前に死去し、現在はマンションで娘と2人暮らし。

■家族状況

- ・ 相談者には娘が2人いる。姉は57歳。結婚して関東地方に住んでおり、日常的には当該世帯に関わるできない。
- ・ 妹は54歳。重度の知的障がいがあり、療育手帳Aを所持している。日常生活には支援が必要で、成年後見人が付いている。現在は就労継続支援B型に通所している。
- ・ 普段は穏やかで人懐っこい性格だが、ストレスなどで感情をコントロールできなくなると、大きい声を出したり、独り言を言ったりすることがあり、近隣住民とトラブルになったこともある。
- ・ 相談者に叱責されたり注意を受けたりすると、八つ当たりをして暴力を振るってしまうことがある。しかし、日常的に相談者との関係が悪いわけではない。



■相談に至った経緯

- ・ 相談者の体のアザを発見したデイサービスの職員が市の障がい者基幹相談支援センターに連絡したことで相談につながった。

■相談内容・相談者の状況等

- ・ 相談者のケアマネジャーに確認すると、これまでも同様のことがあったが、娘は周囲から注意を受けると反省して、しばらくの間は暴力が無くなるとのこと。
- ・ 相談者は、自身が施設に入ることは考えておらず、自宅で過ごすことを希望している。また、娘にはグループホームに入居してもらいたいと考えている。
- ・ 娘自身は今後も自宅で過ごすことを希望しており、相談者が施設に入所すれば、自分は自宅で伸び伸びと一人暮らしができるのではないかと考えている。
- ・ 最近では相談者自身が以前ほどは娘を抑えることができなくなってきたため、暴力を振るわれる頻度が高まっており、大きな事件になる前に対応が求められる状況になりつつある。

■対応

- ・ 虐待の事実確認と今後の生活の意向について、相談者と娘それぞれから聞き取りを行なった。
- ・ 各関係機関／関係者を集めたケース会議を開催し、意見や支援方針の取りまとめと調整を行なった。
- ・ 相談者にショートステイの体験利用を通じて施設に慣れてもらい、施設入所につなげることを提案したが、拒否されたため、娘との分離には至らなかった。
- ・ 虐待解消を最優先に考えると、これ以上の同居は望ましくないが、双方が施設入所を強く拒否していることから、当面は介護サービスや障がい福祉サービスの利用を増やし、見守りの頻度・回数を高めるとともに、娘と信頼関係ができてきている相談員・支援員が丁寧にに関わり、気持ちの整理を促す等の支援を継続的に行なっていくこととした。

■評価および今後の課題

- ・ 各関係機関／関係者の意見・支援方針が一致せず、連携や調整が難しい状況だったが、結果的に様々な機関が当該世帯に関わる機会が増え、丁寧な対応が可能になった。
- ・ 相談者や娘の介護サービスや障がい福祉サービスの利用を増やしたことで、多くの関係者が当該世帯を見守るようになり、娘から相談者への暴力等を減少させることができた。
- ・ 依然として再発の可能性もあることから、引き続き信頼関係を保ちつつ、継続的な見守り・支援を行うとともに、当事者の意向を尊重した上での課題の解決方法を模索していく必要がある。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- ・ 市町村の高齢者虐待対応部署
- ・ 市町村の介護保険担当部署
- ・ 市町村の人権担当部署
- ・ 市町村の福祉事務所、障がい福祉担当部署
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 介護支援専門員（ケアマネジャー）
- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
- ・ 隣保館、人権文化センター
- ・ 市町村人権協会